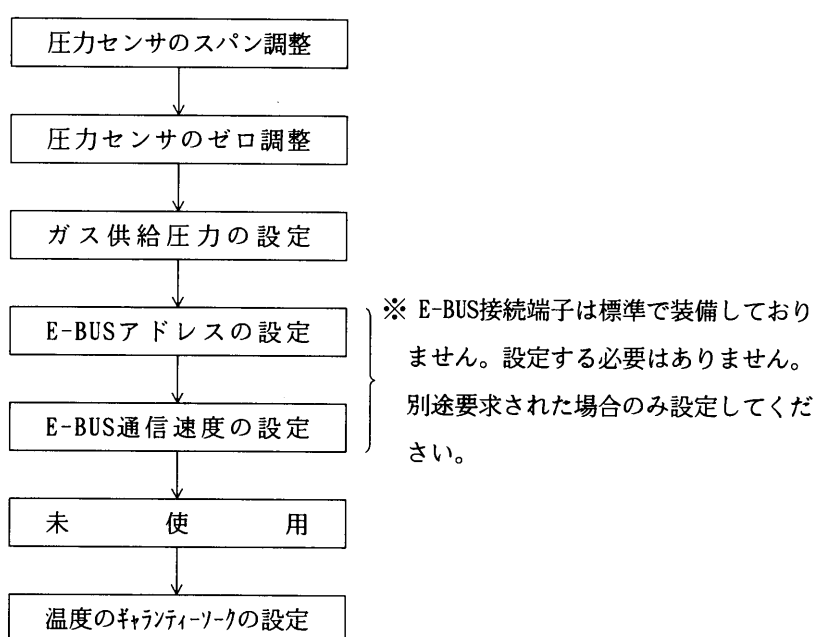


4.7 コントローラの環境設定

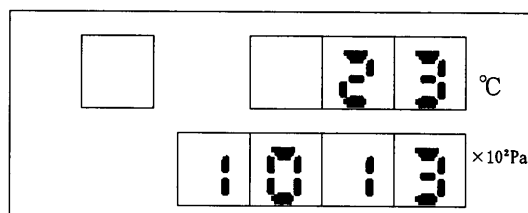
設定場所での大気の圧力値やパソコンから装置を集中管理するときの通信速度などの利用環境をあらかじめ設定しておきます。

設定項目のうち、「圧力センサのスパン調整」および「圧力センサのゼロ調整」は装置使用前および移設時には必ず実施してください。大気圧は設置場所の高度により異なりますので設定をしないと正しい圧力が表示されません。詳細は⑧、⑨を参照ください。

次のような手順で設定します。



① ディスプレイには、モニタ画面が表示されています。



<モニタ画面>

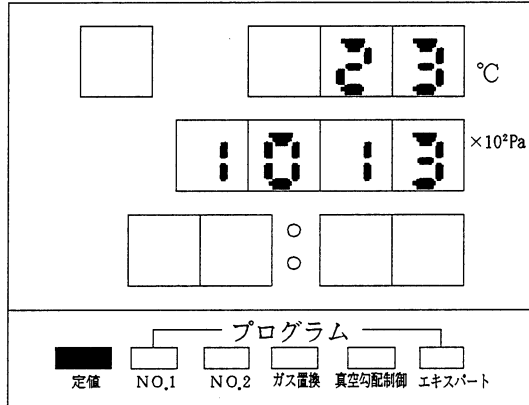
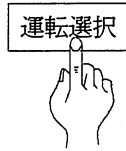
このあと②～⑥の操作は、⑨の圧力値のゼロ調整に必要です。0 Pa(0 Torr) で定値運転するための準備をしておきます。

② 運転方法から定値運転を選択します。

定値のランプが点灯していることを確認してください。

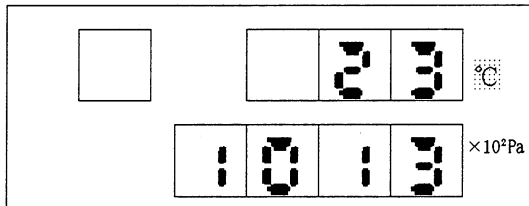
・定値以外のランプが点灯している場合、定値のランプが点灯するまで

運転選択 キーを数回押してください。



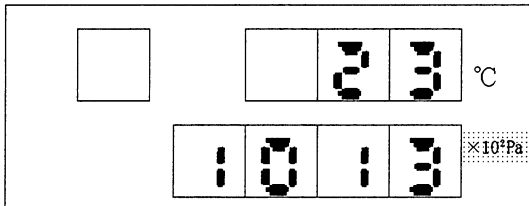
③ コントローラを設定できる状態にします。

設定/モニタ キーを押します。



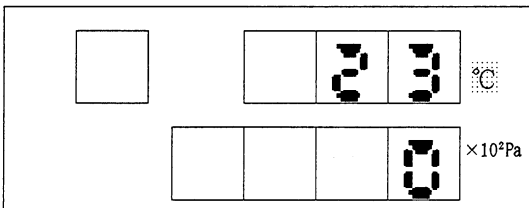
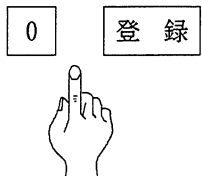
④ 設定温度は入力しませんので、次に移ります。

登録 キーを押します。

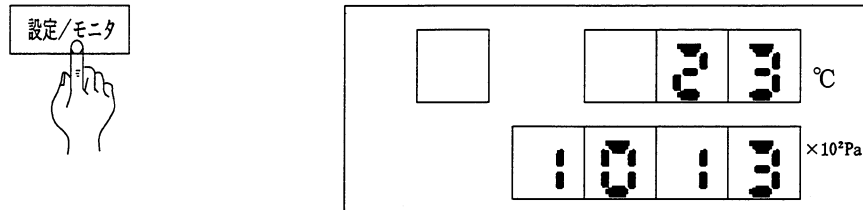


⑤ 設定圧力を入力します。

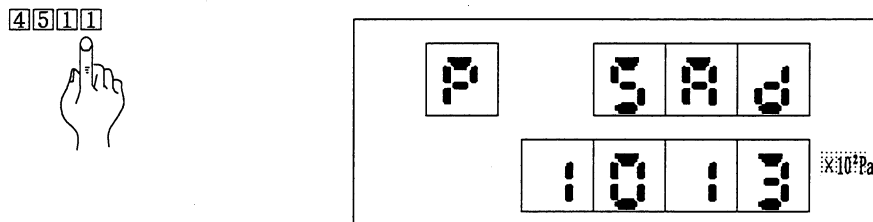
0 Pa(0 Torr) に設定しますので、**0** **登録** キーを押します。



- ⑥ 0 Pa (0 Torr) で定値運転をするための設定が完了したので、モニタ画面に戻します。 **設定/モニタ** キーを押します。

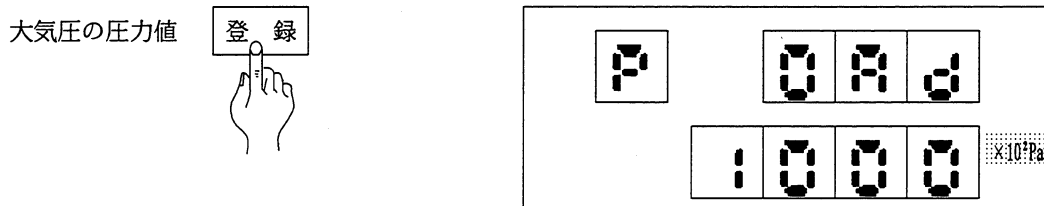


- ⑦ 環境設定できる状態にするため、暗証番号 (4511) を入力します。



※ 上段の表示は pressure Span Adjustment を示しています。

- ⑧ 設置場所での大気圧の圧力値を設定します。大気圧は、設置場所の高度により異なるため、槽内の圧力センサの基準を定めるために行います。(スパン調整) まず、槽内を大気圧にするため扉を開けます。次に、設置場所での大気圧の圧力値を設定します。圧力値は、付録の「高度-圧力換算表」から求めてください。たとえば、 $1000 \times 10^2 \text{Pa}$ の場合 **1** **0** **0** **0** **登録** と設定します。



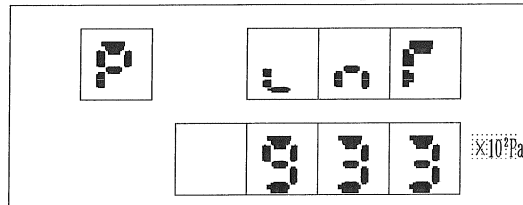
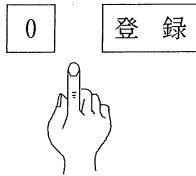
※ 上段の表示は pressure 0 Adjustmentを示しています。

⑨ 圧力値のゼロ調整をします。

まず、扉を閉めます。

次に、**運転 開始/終了** キーを押し、圧力設定値が 0 Pa(0 Torr) で定値運転を開始させます。約 30 分で圧力測定値が安定します。

その状態で **0** **登録** キーを押し、槽内の圧力を 0 Pa(0 Torr) として登録します。



※ 上段の表示は Pressure Inert を示しています。

⑩ ガス置換運転をする場合のガス供給圧力を設定します。

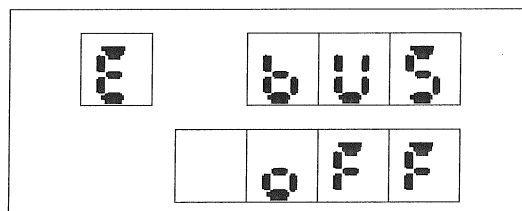
設定範囲は $13 \times 10^2 \text{ Pa} (10 \text{ Torr}) \leq \text{圧力} \leq 933 \times 10^2 \text{ Pa} (700 \text{ Torr})$ です。圧力が高いほど残存酸素量が少なくなり、 $933 \times 10^2 \text{ Pa} (700 \text{ Torr})$ の場合、ガス置換直後は約 60PPM(体積比) になります。ただし、ガス置換する時間を短縮するために圧力を低くすることもできます。

表 4.1 ガス置換時間

(供給圧力が $933 \times 10^2 \text{ Pa} (700 \text{ Torr})$ のとき)

型 式	ガス置換時間
VAC-100PR	約 20 分
VAC-200PR	約 40 分
VAC-300PR	約 80 分

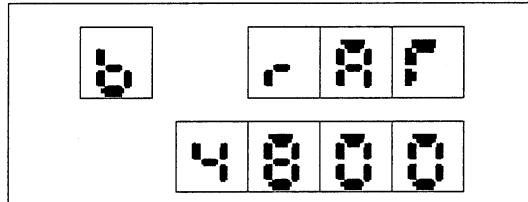
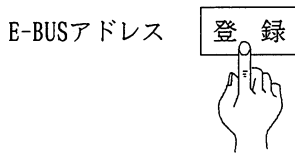
ガス圧力値



※ 上段の表示は ESPEC bus を示しています。

⑪ パソコンから装置を集中管理するときに、この装置を識別するための番号 (E-BUSアドレス) を設定します。E-BUSアドレス を入力してください。

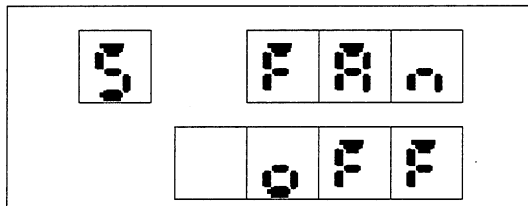
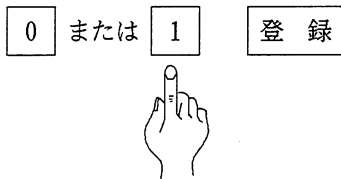
- E-BUSアドレスの範囲： 1～31
- E-BUSを使わないとき： 0



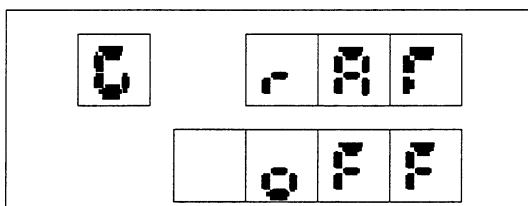
※ 上段の表示は baud rate を示しています。

⑫ E-BUS通信速度を設定します。

- 4800 bpsのときは、 と入力してください。
- 976.6 bpsのときは、 と入力してください。
- 設定しないときは、 だけを入力してください。



⑬ 現在未使用の項目が表示されますので、次の項目に移るため、 キーを入力します。



※ 上段の表示は GuarAntee soak を示しています。

⑭ 温度のギャランティーソークのON/OFFを設定します。

温度のギャランティーソークとは、プログラム運転において、各ステップの設定温度に達してからそのステップの設定時間の計上を開始する機能です。たとえば、あるステップが100℃ 2時間の設定のとき、温度のギャランティーソークがONの場合とOFFの場合では、下図のように運転結果が異なります。試料が設定温度にさらされる時間をあらかじめ設定しておきたいときに使います。

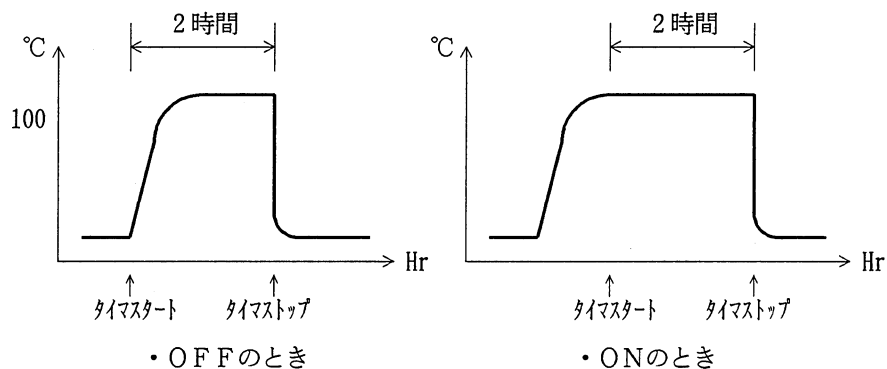
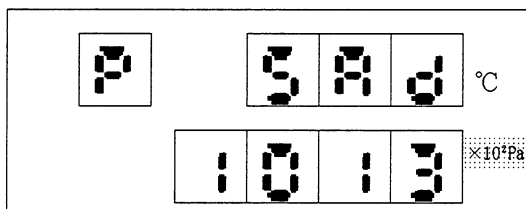


図4.7 温度のギャランティーソーク

・ONにするときは、 と入力します。

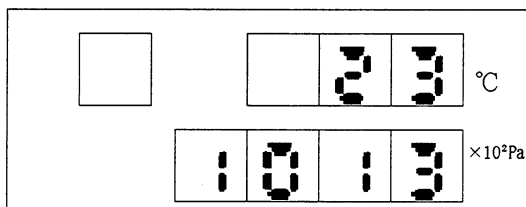
・OFFにするときは、 と入力します。

または



⑮ 環境設定が終了しましたので、モニタ画面に戻します。

キーを押してください。



⑯ コントローラの電源を切ります。

キーを押します。

